

2024年11月14日  
2024年12月期 第3四半期決算カンファレンスコール 説明要旨



皆様こんにちは。日本ペイントホールディングス共同社長の若月です。本日はご多忙の中、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

これより、2024年第3四半期決算の概要についてご説明いたします。

## 1. 2024年第3四半期の決算概況～過去最高の売上収益、営業利益は過去2番目～

2024年3Q

(短信ベース)

(億円)	実績	YoY
売上収益	4,056	+3.2%
営業利益	473	-1.3%
営業利益率	11.7%	-0.5pt

(実質ベース)

(億円)	実績	YoY
売上収益	3,997	+1.8%
営業利益	413	-13.1%
営業利益率	10.3%	-1.8pt

◆ **短信ベース**

- ・ 建築用を中心とした販売数量の増加、新規連結影響などにより、+3.2%増収
- ・ トルコにおいては、引き続き超インフレ会計を適用（3Q影響は売上収益c.-35億円、営業利益c.-17億円）
- ・ 営業利益は、増収効果も、トルコなどでインフレに伴う販管費の増加により、-1.3%減益
- ・ 営業利益率は11.7%と、概ね前年同期並み
- ・ 日本の営業利益率は、短信・実質ベースともに前年同期並み

◆ **実質ベース**

- ・ 中国の建築用は、TUCにおいて消費者センチメントや市場の低迷に伴い製品値下げを実施も、販売数量の増加に加え、3～6級都市や塗料周辺分野における成長により、+1%増収。TUBにおいては、依然軟調な不動産市場の影響を受け、-16%減収
- ・ 中国全体では、売上収益は+2.0%増収も、営業利益は-31.8%減益、営業利益率は-4.4pt悪化
- ・ 建築用は、数量成長や製品値上げが浸透した結果、日本・Betek Boya（トルコ）以外で増収
- ・ 自動車用は、日系自動車メーカーを中心とした生産台数の影響により、日本・中国で減収、米州で増収

売上収益 YoY分析	塗料・コーティング事業			塗料周辺事業	為替影響	新規連結影響
	販売数量	価格/ミックス	塗料事業 (その他)*			
	c.+1%	c.-3%	c.+3%			

※塗料・コーティング事業に含まれるもの、半製品やファインケミカルなど、塗料製品とは数量単価が大幅に異なる製品を指す。より合理的なデータを出すため、販売数量、価格/ミックスから切り出して開示

2024年第3四半期の決算概況についてご説明いたします。

短信ベースでは、売上収益は前年同期比 3.2%増の 4,056 億円、営業利益は前年同期比 1.3%減の 473 億円と、第 3 四半期として過去最高の売上収益を達成したものの、営業利益はほぼ横ばいとなりました。売上収益の分析は説明資料の下段にある通り、塗料事業の販売数量、塗料周辺事業、新規連結影響がプラスに貢献した一方、為替影響、価格/ミックスはマイナスとなりました。

実質ベースでは、売上収益は 1.8%増収、営業利益は 13.1%減益となりました。NIPSEA 中国の建築用は厳しい市場環境の中において、TUC が 1%増収、TUB は 16%減収でした。NIPSEA 中国全体では 2%増収を確保したものの、営業利益は実質ベースでは補助金を控除している関係で 32%減益となりました。NIPSEA 中国ではオペレーションの効率化などの費用見直し策を従前以上に進めており、第 4 四半期以降のマージン改善を見込んでいます。

ある意味で想定よりもやや厳しい第 3 四半期でしたが、全体感としては、NIPSEA 中国、トルコ、特にフランスを中心とした DGL 欧州が厳しく、それ以外は厳しい市況環境下でもまずまずの結果を残すことができたと考えています。

## 2. 2024年第3四半期(累計)の決算概況～売上収益・営業利益ともに過去最高～

2024年3Q累計

(短信ベース)

(億円)	実績	YoY
売上収益	12,227	+12.6%
営業利益	1,418	+7.7%
営業利益率	11.6%	-0.5pt

(実質ベース)

(億円)	実績	YoY
売上収益	11,467	+5.7%
営業利益	1,262	+1.9%
営業利益率	11.0%	-0.4pt

◆ **短信ベース**

- 建築用を中心とした販売数量の増加、塗料周辺事業、為替影響、新規連結影響などにより、+12.6%増収
- トルコにおいては、引き続き超インフレ会計を適用(3Q累計影響は売上収益c.+4億円、営業利益c.-42億円)
- 営業利益は、増収効果により、+7.7%増益
- 営業利益率は11.6%と、概ね前年同期並み
- 日本においては、原材料費率の改善などにより、利益率は短信・実質ベースとも+0.8pt改善

◆ **実質ベース**

- 中国の建築用は、TUCにおいて、特に上半期に販売数量が増加し、3～6級都市や塗料周辺分野において成長したことにより、+7%増収。TUBにおいては、依然軟調な不動産市場の影響を受けたことで、-14%減収
- 中国全体では、売上収益は+6.2%増収も、営業利益は概ね前年同期並み、営業利益率は-0.8pt悪化
- 建築用は、数量成長や製品値上げが浸透した結果、日本・DGL(欧州)以外で増収
- 自動車用は、日系自動車メーカーを中心とした生産台数の影響により、日本で減収、中国・米州で増収

売上収益 YoY分析	塗料・コーティング事業			塗料周辺事業	為替影響	新規連結影響
	販売数量	価格/ミックス	塗料事業 (その他)*			
	c.+2%	c.-0%	c.+3%			

※塗料・コーティング事業に含まれるもの、半製品やファインケミカルなど、塗料製品とは数量単価が大幅に異なる製品を指す。より合理的なデータを出すため、販売数量、価格/ミックスから切り出して開示

次に、第3四半期累計の決算概況についてご説明いたします。

第3四半期累計では、売上収益、営業利益ともに過去最高を更新しました。繰り返しになりますが、地域または四半期ごとに収益状況は多少上下するものの、全体としては各地域で非常に健闘していると捉えています。

### 3. 2024年通期見通しについて(1)～見通しに変更はなく、過去最高を更新する見込み～

(億円)	短信ベース			短信ベース(参考値)		2024年 3Q累計 実績	2024年 4Q 見通し
	2023年 実績	2024年 予想 (2月時点)	YoY (%)	2023年 4Q実績	2024年 4Q見通し YoY (%)		
売上収益	14,426	16,000	10.9%	3,567	+15%前後	151.6	149.4
営業利益	1,687	1,840	9.0%	371	+15%前後	21.1	21.0
営業利益率	11.7%	11.5%	-0.2pt	10.4%	Slightly above	100.5	100.2
税引前利益	1,615	1,740	7.7%	345	+15~20%	164.6	162.4
当期利益 <sup>※1</sup>	1,185	1,240	4.7%	250	+5~10%	4.2	4.4
						0.0095	0.0097

#### 4Q見通し

- 原材料費率や販管費のコントロールを徹底することで、マージンの維持・改善を見込む
- 原材料市況は比較的安定する見通し

#### 通期見通し

- 足元の為替基調が続く前提に、売上収益は期初予想比2%程度の上振れ、営業利益は0.5~1%程度の上振れをそれぞれ見込む
- インド2事業(NPI・BNPA)の買い戻しについては、当局からの承認は取得済みで、第4四半期から業績への取り込みを開始予定

NIPPON PAINT GROUP ※1 親会社の所有者に帰属する当期利益 ※2 題インフレ会計の適用に伴い、期末日レートを適用

5

2024年通期の見通しについては、為替は円安基調が継続しているものの、現地通貨ベースでは先ほど申し上げた地域でやや厳しいこともあり、修正していません。

ただし、今後の見通しとしては、期初予想は上回る見込みであり、為替を説明資料右上に記載の第4四半期見通しを前提として、第4四半期の売上収益、営業利益は短信ベースでともに15%前後の増収増益を見込んでいます。

通期の見通しとしては、説明資料の下段に記載している通り、売上収益は期初予想比2%程度の上振れ、営業利益は0.5~1%程度の上振れをそれぞれ見込んでいます。

なお、インド2事業の買い戻しについては、当局からの承認は取得済みで、現時点ではクロージングには至っていないものの、業績への取り込み開始は第4四半期中を予定しています。ただし、連結業績に与える影響は軽微となり、詳細は割愛します。

### 3. 2024年通期見通しについて (2)

(億円)		2023年実績 (短債ベース)		2024年見通し(現地通貨ベース)				
				8月見通し		直近の見通し		
		売上収益	営業利益率	YoY (売上収益)	YoY <sup>※1</sup> (営業利益率)	YoY (売上収益)	YoY <sup>※1</sup> (営業利益率)	YoY (営業利益率) vs 8月予想
日本	セグメント合計	2,015	9.5%	±0%前後	→	±0%前後	→	Slightly above
	自動車用	421		-10%前後		-5%前後		
	汎用	485		+0~5%		+0~5%		
	工業用	397		+0~5%		±0%前後		
NIPSEA 中国	セグメント合計	4,827	12.5%	+5~10%	→	+5~10%	→	Slightly below
	汎用 (TUC)	4,082 <sup>※2</sup>		+10~15%		+5~10%		
	汎用 (TUB)			-5%前後		-10~15%		
	自動車用	504		+0~5%		+5%前後		
NIPSEA 中国以外	セグメント合計	2,888	17.4%	+10~15%	→	+10~15%	→	Inline
	マレーシアグループ シンガポールグループ タイグループ			+5~10%	→	+5~10%	→	Slightly above
	PT Nipsea (インドネシア)	609	32.9%	+0~5%	→	+0~5%	→	Slightly below
	Betek Boya (トルコ)	752	10.9%	+30%前後	↘	+30%前後	↘	Inline
	Alina (カザフスタン)	229 <sup>※3</sup>	20.2% <sup>※3</sup>	+5~10%	→	+5%前後	→	Slightly below

NIPPON PAINT GROUP ※1 1:+2%以上、△:+1~2%、→:-1~+1%、↘:-1~2%、↓:-2%以上 ※2 「その他」含む ※3 プロフォーマ値(未監査)

6

### 3. 2024年通期見通しについて (3)

(億円)		2023年実績 (短債ベース)		2024年見通し(現地通貨ベース)				
				8月見通し		直近の見通し		
		売上収益	営業利益率	YoY (売上収益)	YoY <sup>※</sup> (営業利益率)	YoY (売上収益)	YoY <sup>※</sup> (営業利益率)	YoY (営業利益率) vs 8月予想
DuluxGroup	セグメント合計	3,604	9.6%	+5~10%	→	+5%前後	→	Inline
	DGL (太平洋)	2,225	12.8%	+5~10%	→	+5%前後	→	Slightly above
	DGL (欧州)	1,379	4.4%	+5~10%	↗	+0~5%	→	Slightly below
米州	セグメント合計	1,092	6.5%	+5%前後	→	+5%前後	→	Slightly below
	自動車用	409		+0~5%		+0~5%		
	汎用	664		+5~10%		+5%前後		

NIPPON PAINT GROUP ※1 1:+2%以上、△:+1~2%、→:-1~+1%、↘:-1~2%、↓:-2%以上

7

説明資料 P6-7 ページでは、2024年8月にお伝えした現地通貨ベースの売上成長率とマージンの動向について、あくまで通年ベースにはなりますが、直近の見通しとしてアップデートしています。

## 4. 原材料市況・当社状況

地域・原材料で価格にばらつきがあり、原材料費率の大きな変動は見込まず

### 2024年3Q

- 世界経済の不振継続や、サウジアラビアの原油目標価格の放棄、一時的な中東紛争の停戦と終戦期待などを背景に、原油価格は6月末に比べて-7%下落、ナフサスポット価格も同-6%下落
- 中国の原材料価格は総じて軟調に推移し、やや下落傾向に
- 国内では、化学メーカーによる採算是正値上げ、諸経費上昇転嫁の姿勢が継続しており、依然として価格上昇基調が継続
- そうした中、当社の売上総利益率は、前年同期比で+0.1pt改善（前四半期比では-0.4pt低下）

#### ◆ 売上総利益率

2022年1Q	2022年2Q	2022年3Q	2022年4Q	2022年通期
37.6%	36.1%	37.0%	38.4%	37.2%
2023年1Q	2023年2Q	2023年3Q	2023年4Q	2023年通期
39.3%	40.0%	39.7%	40.6%	39.9%
2024年1Q	2024年2Q	2024年3Q	前年同期比	前四半期比
40.8%	40.2%	39.8%	+0.1pt	-0.4pt

### 2024年4Q以降

- 10月末時点の原油価格は9月末に比べて-1.1%下落したのに対して、ナフサスポット価格は円安影響もあり同+7.6%上昇。足元では細かな上下動を繰り返している
- 中東紛争の戦局拡大や中国の景気刺激策に伴い、投機資金の流入や商品相場の上昇などの懸念あり
- 中国では、消費者センチメントの弱さや経済成長の低さを背景に、原材料価格の軟調な推移が続く見通し
- 国内では、サプライヤーからの採算是正値上げ、諸経費上昇転嫁に加え、円安、ナフサ上昇による価格上昇も懸念され、継続して注視が必要
- 当社としては、地域や原材料によって価格にばらつきがあるため、全体としては原材料費率の大きな変動は見込まず

NIPPON PAINT GROUP

8

## 5. 市況・事業環境

		日本	NIPSEA中国		DGL (太平洋)	DGL (欧州)	米州
2024年 第3四半期	自動車	⇒	⇩				⇩
	建築	⇒	⇒ TUC	⇒ TUB	⇒	⇒	⇒
2024年 第4四半期 見通し	自動車						
	建築		TUC	TUB			
2024年 通期 見通し	自動車						
	建築		TUC	TUB			

■ 市況 (前年同期比)

好調

軟調

■ 業況 (市場対比) \*

⇩ アウトパフォーム

⇒ インライン

⇩ アンダーパフォーム

\*当社推定

NIPPON PAINT GROUP

9

原材料市況は全般的に安定的な推移を見込んでおり、市況・事業環境についてはヒートマップの通りです。

## 6. 主要セグメントの決算概況

(億円)		短信ベース		実質ベース		概要
		2024年3Q	YoY	2024年3Q	YoY	
日本	売上収益	524	+5.4%	521	+4.9%	自動車用、汎用、工業用で引き続き市況の影響を受けたものの、船舶用などが好調で、増収
	営業利益	49	+7.0%	48	+6.3%	原材料費率の悪化も、増収効果により、増益
NIPSEA 中国	売上収益	1,424	+4.8%	1,384	+2.0%	軟調な不動産市場の影響を受けたTUBの販売減も、3～6級都市や塗料周辺分野で販売数量が増加したTUCがやや伸長し、概ね前期並み
	営業利益	161	-13.0%	122	-31.8%	製品値下げに伴う原材料費率の悪化により、減益
NIPSEA 中国 以外	売上収益	804	-3.2%	826	-0.7%	マレーシアグループやシンガポールグループ、タイグループが伸びたものの、Betek Boyaでインフレ経済環境が影響し、前期並み
	営業利益	139	+1.7%	123	-10.2%	インフレに伴う販管費の増加などにより、減益
DGL (太平洋)	売上収益	638	+7.8%	610	+3.1%	既存事業は軟調な市場を背景とした販売数量の伸び悩みで前期並みも、現地で実施した小規模な事業買収により、増収
	営業利益	87	+20.1%	84	+12.3%	低調な売上を踏まえたマーケティング活動のタイミング調整やコスト対策の徹底を通じた販管費率の改善により、増益
DGL (欧州)	売上収益	366	+0.8%	356	-2.2%	ETICSや塗料周辺製品の販売減少やフランスにおける製品ミックスの悪化により、減収
	営業利益	23	-8.6%	23	-12.7%	売上総利益率の改善効果が一部あったものの、減収影響やインフレに伴う販管費の増加により、減益
米州	売上収益	301	+4.4%	300	+4.2%	自動車用が概ね前期並みにとどまる中、汎用が販売好調だったことにより、増収
	営業利益	21	+2.9%	22	+4.2%	汎用において北カリフォルニアで投資額 <sup>※</sup> が増えたものの、増収効果や自動車用における製品値上げの浸透に伴う原材料費率の改善により、増益

NIPPON PAINT GROUP

※親会社が撤退した店舗跡地に5月末までに17店舗の閉業が完了、足元ではコストが先行しているものの、徐々に業績寄与を見込む

10

主要セグメントの決算概況については2点だけ補足し、詳細は質疑に委ねます。

1. NIPSEA 中国以外のアジアの減収減益は、相変わらずトルコで発生しているインフレ、あるいは超インフレ会計の影響を大きく受けたものです。トルコを除いた NIPSEA 中国以外の売上成長率は約 5.4%であり、うちインドネシアも 7.9%の売上成長と、まずまずの回復の兆しが見て取れました。
2. DuluxGroup においては、太平洋、欧州ともに市況が変わらず厳しかったものの、太平洋においては塗料周辺分野での小規模買収の寄与もあり、3.1%の売上成長、マージンは1ポイント改善しました。欧州においては引き続きフランスの市況のみが厳しく、残念ながら減収となりました。

## 7. 主なトピックス (1)

### 「IR DAY 2024」を12月2日に開催予定

- ・当社として初の「IR DAY」(機関投資家向け説明会)を12月2日(月)13:00~16:40に開催予定

時間	プログラム	スピーカー
13:00 - 13:10	Opening Remarks	取締役 代表執行役共同社長 若月 雄一郎
13:10 - 13:50	DuluxGroupによるブランド戦略	DuluxGroup Chairman and Chief Executive Officer Patrick Houlihan
13:50 - 14:30	NIPSEAグループによるブランド戦略	NIPSEA Group Senior Vice-President, Strategic Innovation & Marketing Gladys Goh
14:30 - 14:40	休憩	
14:40 - 15:50	NIPSEAグループ事業戦略	取締役 代表執行役共同社長 Wee Siew Kim
15:50 - 16:40	ガバナンス	筆頭独立社外取締役 取締役会議長 中村 昌義
16:40	終了	

### 「統合報告書2024」説明会を実施 (9月6日開催)

- ・2024年7月末に発行した「統合報告書2024」について、当社として2回目となる説明会を開催
- ・特に着目すべきポイントをピックアップして解説することで、「株主価値最大化 (MSV)」実現に向けた戦略的な取り組みを紹介
- ・説明会などを通じて得られたご意見やご要望を「PERの最大化」の一助にするとともに、2025年度版の企画・制作の糸口とすることを企図

主なトピックスをご紹介します。

1つ目は、来る12月2日(月曜日)に当社として初の「IR DAY」を開催し、当社に対する理解をより多面的に深めていただこうと考えています。特に新しい試みとして、当社のブランド戦略にフォーカスするプログラムを設けており、いわゆる欧米型のモデルを実践しているDuluxGroupと、アジア型のモデルを実践しているNIPSEAグループからそれぞれの視点よりご説明いたします。また、NIPSEAグループ全体の事業戦略をウィー・シューキム共同社長から、ガバナンスについては中村昌義筆頭独立社外取締役(取締役会議長)からご説明いたします。

2つ目は、去る9月6日(金曜日)に「統合報告書説明会」を開催しました。皆様からは説明会でも、その後においても貴重なご意見をいただきまして、私からも改めてお礼を申し上げますとともに、今後もより読みやすい統合報告書を志向していきます。

## 7. 主なトピックス (2)

### グローバル・スペシャリティ・フォーミュレーター AOCの買収 (10月28日発表)

- 優れたビジネスシステム、少ない設備投資負担に裏打ちされた高いキャッシュ・フロー創出力を背景に、初年度から+15～17円のEPS貢献 (通年ベース) を見込む
- クロージングは2025年上期中を予定。買収費用は手元現預金と新規借入により充当。新株発行の計画はなし

詳細はプレスリリース ([https://www.nipponpaint-holdings.com/ir/news\\_release/20241028ir01/](https://www.nipponpaint-holdings.com/ir/news_release/20241028ir01/))、  
説明会資料 ([https://www.nipponpaint-holdings.com/ir/library/materials/20241028\\_file/](https://www.nipponpaint-holdings.com/ir/library/materials/20241028_file/)) を参照

スペシャリティ・フォーミュレーターとは、建築物・インフラ設備・輸送機器・船舶などで使用されるCASE (Coatings, Adhesives, Sealants and Elastomers: コーティング剤・接着剤・密封剤・エラストマー) や着色剤、複合材料などのコーティング周辺製品向けに、不飽和ポリエステルやビニルエステルなどの配合設計・製造・販売を行う企業



3つ目として、AOCの買収については既に10月28日(月曜日)に発表した通りです。本日も必要に応じて質問を受け付けたいと考えています。

以上、ご静聴ありがとうございました。